

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1351419
園名	武蔵野大学附属幼稚園

【年長編】

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

身近な植物が紡ぎだす「色」

＜テーマの設定理由＞

散歩に出かけるたびに草花あそびを楽しんだり、お土産にしたり、子どもたちの手に届くところに身近な自然がたくさんある。本園の自然を生かし、自然が紡ぎだす「色」に着目し、自然や植物への興味関心を広げてみてはどうか。草花の色の美しさに触れ、不思議さや香りなど五感を刺激する遊びや探求心へとつながっていくのではないかと考えテーマとした。

2. 活動スケジュール

- 4月：色探し、色水あそびを通して自然を通して色に興味を持つ。
藍のプランターを準備し、藍を育てる。
- 6月：梅の収穫。梅干しづくりでできた梅酢を保存しておく。
- 7月：藍の生葉収穫。藍の生葉、玉ねぎの皮、ビワの葉でハンカチを染める。
- 9月：園庭の植物で色水遊び
- 1月：大学構内や園庭のさざんか、ミカンの皮を使って、毛糸や端切れを染めてみる。
6月に作った梅酢でも染めてみる。
- 2月：アートフェスタで紹介
染めた毛糸や布でさき織に挑戦。

3. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

《準備したもの》

煮出し染め

- ・鍋、さえばし、コンロ、タライ、ネット、ジップロック、藍の生葉、玉ねぎの皮、ビワの葉、色どめ

揉み染め

- ・ジップロック、タライ、綿布、毛糸、ボール、さざんかの花、梅酢、ミカンの皮、酢、色どめ

色水あそび

- ・ジップロック、ペットボトル、カップ、テーブル、イス

《環境設定》

- ・日頃の保育で大学内への散歩へ出かけたり、毎年咲く草花を利用。
- ・子どもたちが遊びに活用できる草花の種をまき、水やりなど世話をしながら生長を楽しみにする。
- ・草木染めの方法を調べられるように、道具棚の上にタブレットを設置する。
- ・色水遊びができるよう、ジップロック、ビニール袋やカップ、花壇前にテーブルやイスを設置する。

4. 探究活動の実績

学生と一緒に大学内の自然物を見つけたり、自然が発する色を探るところから始め、植物の色水遊び、そして植物を育てて自然の色に触れる活動を経験した。

《4月の色探しの様子》



「この花はどのいろかな?」「この色の花もさっきあったよね」
子ども達は普段気に留めない小さな花も見逃さず、
様々な色の草花を『いろいろたんけんカード』に記入していた。



八重桜



へびいちご



ぎゅうり草



はないう

★気になる草花の写真
を子どもがタブレット
で撮影!

《7月の草木染めの様子》



「これがどんな模様になるのかな?」
「ここも結んでみよう」



「だんだん黄色になってきた」
「カレーの匂いがする気がする」
保育室が玉ねぎを痛めたような香りで包まれました。



「葉っぱを細かくちぎって入れたけど、これで染まるのかな?」



藍 玉ねぎ ピワ

「いろいろな模様があっておもしろいね」
「藍きれいだね」
「ピンクもかわいい。こんな色になるんだ」
染まったハンカチを見て
「色が濃いね。玉ねぎにすればよかった」
他の色も試したくなった子も。
また以前に色落ちを経験している子は
「洗濯したら色が消えちゃわないかな」
と心配する声もありました。

《色水あそびの様子》

普段の遊びでも色水遊びやジュースやさんをしたり、自分たちで布や和紙を染める遊びへと発展していった。



「オレンジのコスモスはオレンジジュースね」
「黄色のはレモンジュースみたいだね」
「オシロイバナの葉っぱは揉んでも緑色にならないね」
「なんでだろう?」「藍染みたいにもっともんでみたら?」
など色がなかなか出ない植物もあることを遊びながら認識していた。



オシロイバナ

オシロイバナの葉っぱ

キバナコスモス

子どもたちは、染まるかどうか実験！と言って、クラスでも経過を発表。染め方や準備するものをタブレットで調べ、以前経験した藍染同様、カップやジップロックに入れて揉みながら染めていく方法などを見つけ試します。

《1月草木染めの様子》火を使わず遊びの中で色水を作ってみる

さざんか 散歩に行った際に発見



花びらと水だけではなかなか色が出なかったため、タブレットで調べてみると、「酢を入れるって書いてあるよ。」酢を入れると、だんだんと色が出はじめ、泡もでてきた。「う！これはすごい匂いだわ」と鼻をつまんで苦笑い。布を入れると「これで染まるのかな？」と半信半疑。

ミカン・キンカン

園庭に実っている果実を食べた際にたくさんに皮がでたことからやってみることに



ミカンの皮が硬く、揉んでもなかなか色が出ないためミカンの皮をミキサーにかけ染めてみると、「ミカンのいい香り」「オレンジジュースみたい」「飲みたくなっちゃうね」等、さわやかな香りを楽しみながら染めていた。

梅酢

梅干を作った時に手が赤く染まったことを子どもたちが思い出し、これもやってみることに



「梅干食べなくなっちゃう匂いだね」
「これは染まりそうだよ」とすぐに鮮やかな紫蘇色に布が染まっていく様子を見て嬉しそう。



《アートフェスタにて》

アートフェスタで展示し、異年齢児や他学年の先生にも染色した素材や工程を紹介。経験したことを自信をもって説明する様子が見られた。



5. 振り返り

・色水遊びを通して、身近な植物から様々な色が出ることに驚き、感動し、試してみたいという好奇心につながっていった。同じ植物でも水加減や揉み方、いろいろな草花から作った色水を混ぜることで様々な色の変化が楽しめることを感じ、絵の具とは異なる自然の優しい色の発色を楽しんだり、色が出ない草花もあることなどを遊びながら学んでいくおもしろさを感じていた。

・こんな色になるかな？どんな色になるんだろう？予想を立てて実験する喜びや想像すること、また、友達と一緒に試したり、感じたことを共有し合うことで遊びがさらに豊かになっていった。今回、草木染めを経験したことで、自然が持つ豊かな色彩の不思議さを体験することができたため、今後も子どもたちと遊びにつながる草花を育てたり、園の自然を生かしながら探究心を育んでいきたいと思った。

【年中編】

1. 活動のテーマ

<テーマ>

葉っぱ

<テーマの設定理由>

- ◎ 本園はたくさんの自然に囲まれているため子どもたちは学内散歩が大好きである。
(当たり前にある自然にもっと興味を持ちもっと知りたい！が広がればこれからの散歩も、また違った楽しさが増えると考えたため)
- ◎ 不思議なことは自分たちの身近にあふれているということを発見するため。

2. 活動スケジュール

- ◎ 9月頃から散歩でお気に入りの葉っぱを探して押し葉にしていた。
(お気に入りの葉っぱを取ってきてても次の日には萎れてどんどんパリパリになってきてしまうことに気付く) どうしたらあの形のままでいられるかな・・・。
- ◎ 1月 いろいろな葉っぱ遊び楽しむ。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・葉っぱの色水遊び (お茶作り)
- ・押し葉の木遊び
- ・たたき染め
- ・活動中の子どもの姿・声・子ども思同士や教諭との関わり等

◎ 葉っぱ遊びをした後最後に・・・

担任：みんながすりこぎでお茶作りをしたときに出た葉の残りは何かと問いかける

子ども：カス！ゴミ？葉っぱの残りー！！などの声

担任：それらは葉脈であることを伝える

※マイクロスコープで実際の葉脈をみてみることにする (事前に葉を重曹で煮て葉脈を取り出したもの)

子ども：道みたい！気持ち悪い！すごい！

担任：葉っぱは生きているか生きていないか子どもたちに問いかける

子ども：生きてる！！

担任：人間と同じで生きている

人間には身体中に血管がある。血管には何が通っていると思う？と問う

子ども：血！！

担任：人間は血がないと生きられない。葉っぱは土から水や栄養を吸い上げて葉脈を通して葉っぱが元気になることを伝える

人間も葉っぱも一緒であることを伝えた

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・春から取り組むことができたならこの先子どもたちの気づきの声を拾い、探究が深まる様子も見られたかなと感じた。

・マイクロスコープをきっかけにいろいろなものが見たい！と子どもたちの声があった➡雪を見たり塩の結晶を見た

・散歩をより楽しみにできるようになったり葉っぱに目を留める子が増えた



葉の種類によって葉の量によって色や濃さの違いに気付く



お気に入りの葉っぱを集めて押し葉づくり



押し葉を使って大きい木を作る



たたき染め



人間でいう血管



人間でいう骨



マイクروسコープで実際の葉脈をみている

【年少編】

1. 活動のテーマ

<テーマ>

遊びの中で自然物にたくさん触れる

<テーマの設定理由>

自然に囲まれた幼稚園。園庭にも落ち葉や松ぼっくりなどが常に沢山落ちている。子どもたちが遊びの中で自然と取り入れて遊んでいる姿があるため。

2. 活動スケジュール

日ごろから焼き芋大会に向けて、落ち葉を集めることを楽しんでいた。

毎日園庭に、松ぼっくりが沢山落ちて集めることを楽しんでいた。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 沢山落ちている松葉をそのまま園庭に置いておく
- 松ぼっくりを集めるためのボウル

風が強かった日の翌日。園庭にたくさんの松葉が落ちていた。

様子に気づいた子が知らせに来て、教師も一緒になってそれを集めていると、こんもりと山の状態になった。

それを見て『ケーキみたい。』と発言した子の言葉を聞いて、『それならトッピングをしよう！』と、色づいた葉っぱや、松ぼっくりを集めに行く子もいた。

松ぼっくりが手に持ちきれない様子があり、たくさん運ぶには入れ物があるといいかもねと教諭が伝え、砂場の道具からボウルを持ってきてたくさん集める。

そのうちに集めることが楽しくなってきた、ボウルを松ぼっくりでいっぱいすることに夢中になる。

ボウルが満杯になるとやっと、本来の目的を思い出し、松葉ケーキに松ぼっくりをトッピングする。

出来上がると、近くを通りかかった子に『ケーキ屋さんです～！』と声をかけたり、お皿に取り分けて振る舞う姿があり、ケーキ屋さんごっこへとうつっていった。

4. 振り返り

・子どもたちにとっては身近なものすべてが遊び道具となる。自分なりのイメージを膨らませて見立て遊びへと発展していく。ケーキのために集めていた松ぼっくりだったが、途中で目的が逸れて、松ぼっくりを集めること自体を楽しむようになる。そのままケーキ作りは流れてしまうかとも思ったが、新たに見つけた楽しみをやりきると（松

ぼっくりを集め終わると) また本来のケーキを作ると言う目的に戻っていった。またそれを数人で楽しんでいるところから、さらにその周りの子へと発信して、また新たな遊びを生み出し楽しむ姿が見られた。

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・この時期だからこそ、遊びがどんどん移り変わってしまうのではなく、違うことを楽しんだりもしたが、本来の目的に戻りまた楽しむ姿が見られたのだと感じる。
- ・友達同士のつながりも多くなっている時期だったので、一人の子の発信から、周りの子へと広がって行ったり、また更にその周りの子へ働きかけてケーキ屋さんごっこという新しい遊びへと展開していったと考える。

